

いまミドルクラス・セパレートアンプが面白い
30~100万円 最新プリ&パワーアンプ徹底試聴



ヘーゲルのトップモデルとなる大型パワーアンプ。「ヘーゲルサウンドエンジン」と呼ばれるフィードフォワード式の歪補正回路が搭載されているのが特徴。筐体内部は、中央にトロイダル電源トランスを置き、入力段から出力段までの増幅回路を左右に完全分離したデュアルモジュール構造を採用する。

●出力:300W+300W(8Ω) ●寸法/重量:W430×H210×D550mm
/45kg ●備考:バランス入力HOT=2番ピン ●問合せ先:横エレクト
リ ☎03(3530)6276

ヘーゲル **H4A** ¥900,000

肉厚で堂々とした音。
低音は重量感に富み、
トゥツティはダイナミック

柳沢功力

すべての音を肉厚で堂々と描き出し、低音域は重量感に富み存分のドライバ力を意識させる。となると、まず「マラー3番」が印象に残る。冒頭のファンファールからすでに壮大で、同時に低音群は重い響きを発し、さらに他機種では強く意識しなかったタムタムも、唸りで存在を主張。もちろんグラuncassの強打は圧倒的だし、トゥツティには気迫がありダイナミックだ。また手に汗握らせたのは「ビッグバンド」。プラスは透명한金属色の輝きが冴えギンギンの盛り上がり。それにドラムスはタッチに緊張感が漲り、打音の厚い唸りが強力な駆動力を誇示。

「二重唱」の音像も肉厚で、バス・バリトンは声量豊かだし、ソプラノは肉感的。ただし、多少マイルド感には乏しく、逆にエネルギーの強い逞しさの方向にもなりがちだ。それに「器楽曲」ではコントラバスの彫りの深さなど立体的で見事だが、弱音での濃厚さには少し乏しく、ヴァイオリンは多少サラツとした感触でもあった。

繊細な描写に長け、
程よい厚みを伴った
端正な聴かせ方

和田博巳

プリアンプはいい意味で個性的だったが、こちらはもう少しニュートラル。大きな筐体のアンプだが、「二重唱」はデリカシーに富み、音像を肥大させずスッキリと描く。イタリーの血色のよさを感じさせるタイプではないが、曲調に寄り添った優しさがあり、端正に聴かせる。「器楽曲」は3つの楽器が放つ倍音成分のニュアンスの違いを見事に描き分けた。力感よりもスカッと抜けた繊細な味わいを得意とする。

「マラー3番」を聴くと、切れ込みや見通しのよさだけでなく、程よい厚みを伴っていることが分かった。極めて小さな音で奏されるグランカッサの響きも鮮明で、連打も腰砕けにならない。ただある種の暗さや荘厳さを求める向きには、もう少し重厚であってもいいかもしれないが。

「ビッグバンド」も、面で押し寄せてくる感じは少ないが、晴れやかにスピーディにスイングするので楽しめた。熱い音ではないが、それでも空気感を豊かに再現する。